

より優れたワークスペースデータ。より優れた意思決定。

ロジクールデバイスによって得られるインサイトが、どのようにコラボレーションを改善し、従業員体験を向上し、職場への投資価値を最大化するかをご覧ください。

オフィススペースに関する意思決定が的外れになりがちな理由

オフィススペースの管理は、コストや業務効率の面で、ITや施設管理のリーダーにとって大きな課題となっています。柔軟な働き方とハイブリッド会議がスタンダードとなった今、会議室は日によって予約が集中することもあれば、まったく使われないこともあります。

こうした利用のばらつきや一見不規則なスペースの利用により、データではなく憶測に基づいた意思決定が行われがちです。

しかし、たとえ使用状況データを収集している組織であっても、収集しているデータが適切ではない可能性があります。グローバルな商業不動産サービス・投資管理会社である JLL によると、74%の組織がスペースの使用状況データを収集していると報告しているものの、自社のデータ分析能力を「優れている」と評価しているのはわずか7%にとどまりました。これは、データ収集と分析活用の間には大きな隔たりがあることを示しています。

74%

スペース使用状況データを収集している組織

わずか

7%

自身のデータ分析能力を優れていると評価した組織



適切なデータがなければ、スペースデザインやテクノロジー投資に関して誤った意思決定を下してしまいがちです。国際ファシリティマネジメント協会によると、動的なスペース割り当て戦略を導入することで、不動産コストを15~30%削減できるとされています。一方、Gableはオフィススペースと会議室の利用を最適化すると、企業が従業員1人当たり年間11,000ドルを節約できると推定しています。

では、どうすれば施設管理、不動産、IT部門のリーダーが自身の勘頼みの判断から脱却し、適切なデータを活用してコスト、コラボレーション、快適性、効率性のバランスを取ることができるのでしょうか？

このガイドでは、適切な情報に基づいて、リーダー達がオフィススペースの価値を最大限に引き出し、従業員と企業全体に利益をもたらす方法についてご紹介します。

計測すべき指標

組織がワークプレイスの機能を最適化するために、注力すべき計測領域は大きく2つあります。

スペースの利用状況

スペースがどのように利用されているか（在室状況パターン、需要のピーク時間帯、使用傾向など）を追跡することで、その環境が効果的に業務を支えられているかについて、貴重なインサイトが得られます。

従業員体験

同じように重要なのは、快適さ、空気の質、生産性などの職場環境を評価し、それらが従業員のエンゲージメントや満足度にどのように影響しているかを把握することです。こうしたデータポイントを収集、分析することで、組織は情報に基づいた意思決定を行い、改善すべき分野を特定し、効率とウェルビーイングを促進する環境を構築できます。

ワークスペースの重要なデータポイント

- **利用率**
デスクや会議室が、利用可能な時間に対する実際の利用の割合。
- **利用ピーク時間帯**
デスクや会議室の需要が1日または1週間を通して最も高い時間帯。
- **会議の規模と出席者数**
会議の参加者数と、会議室の収容人数に対する割合。
- **環境条件**
温度、空気の質、湿度、その他の快適性の指標などの要因。
- **会議室の在室パターン**
どのスペースが最も頻繁に使用され、部屋ごとに使用状況がどのように異なるか。
- **テクノロジーの使用**
会議室のデバイスやコラボレーションツールの利用頻度。

データの活用事例 – サイズが重要

在室状況データで明らかになったのは、ある人気の会議室では定員を超える利用が常態化していることです。施設管理チームは、スペースの実際の利用状況に合わせて、レイアウト変更や座席の追加、不要な家具の撤去などを行い、利用環境を整えることができます。



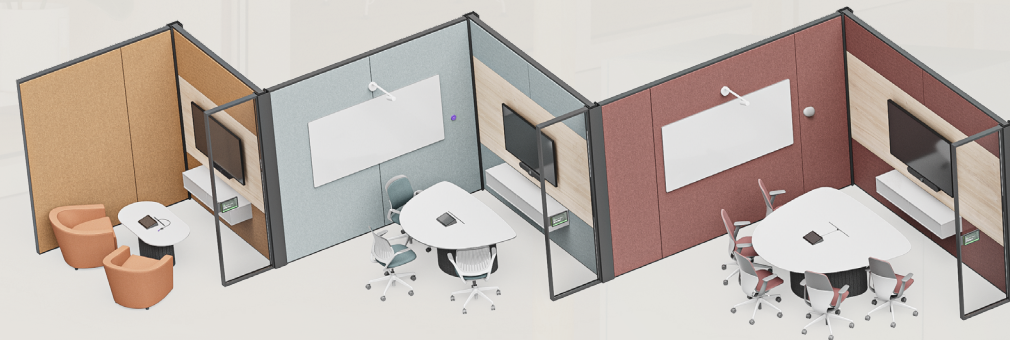
ロジクールでワークスペースのインサイトを収集

ロジクールは、会議スペースが実際にどう使われているかをリアルに把握できるよう支援します。

Rally Bar ファミリー*、**Rally AI Camera**、**Rally AI Camera Pro**、および**ロジクール Spot** のようなデバイスを活用することで、会議室の在室や利用の状況を検出でき、スペースがどの程度使用されているか、また通常の会議参加人数を確認できます。**Rally Board 65**と**ロジクール Spot** は、環境条件を監視して、部屋の快適さが使用状況にどのように影響するかを明らかにします。

一方、**Tap Scheduler** や**ロジクール View** といったソリューションは、オフィス全体のスケジューリングの可視性を向上させ、従業員が空き部屋を見つけやすくすると同時に、予約競合の削減にも貢献します。

これらのソリューションを連携させることで、組織はワークスペースを理解するために必要なデータを取得し、会議スペース活用の課題を解消し、テクノロジーや不動産に対してよりスマートな投資判断を下せるようになります。



ロジクールのインテリジェンスであらゆるスペースを最適化

部屋の利用状況

AI 搭載カメラは会議スペースでの在室状況や利用状況を検出するので、チームは会議室の使用頻度を把握できるようになります。

デバイス：[Rally Bar ファミリー*](#)、[Rally AI Camera](#)、[Rally AI Camera Pro](#)、[ロジクール Spot](#)

会議の出席者数の傾向

人数カウント機能により、通常の会議出席者数を把握できるため、実際の利用状況に合った会議室のサイズ選びに活かされます。

デバイス：[Rally Bar ファミリー*](#)、[Rally Board 65](#)

環境条件

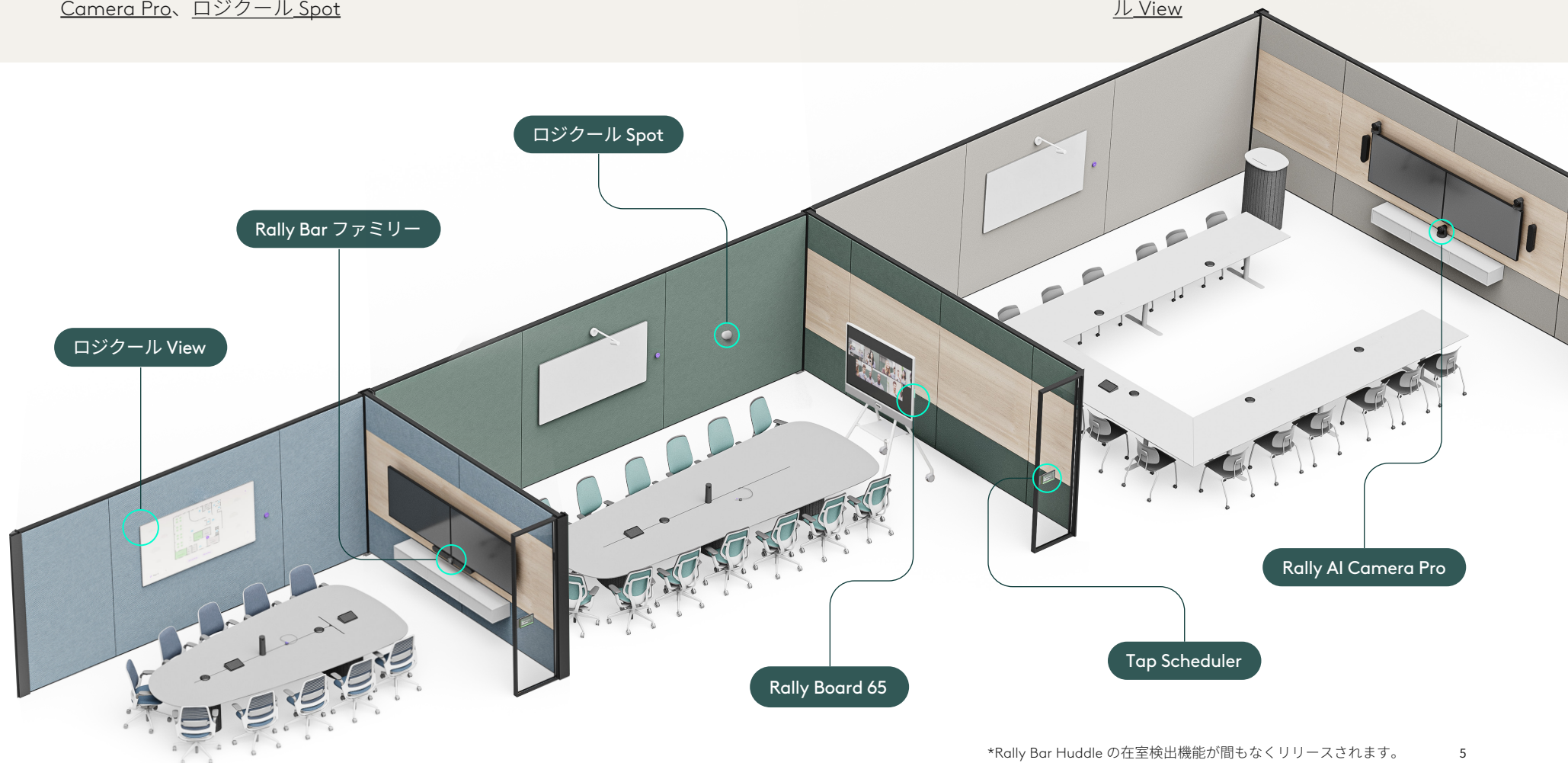
センサーが温度、湿度、空気質を監視することで、快適で生産的な会議環境を保てるようにします。

デバイス：[ロジクール Spot](#)、[Rally Board 65](#)

会議室スケジューリング

ディスプレイやデジタルマップ、さらに Logi Tune ソフトウェアにより、会議室の空き状況がリアルタイムで表示されるため、従業員は会議スペースを速やかに見つけて予約することができます。

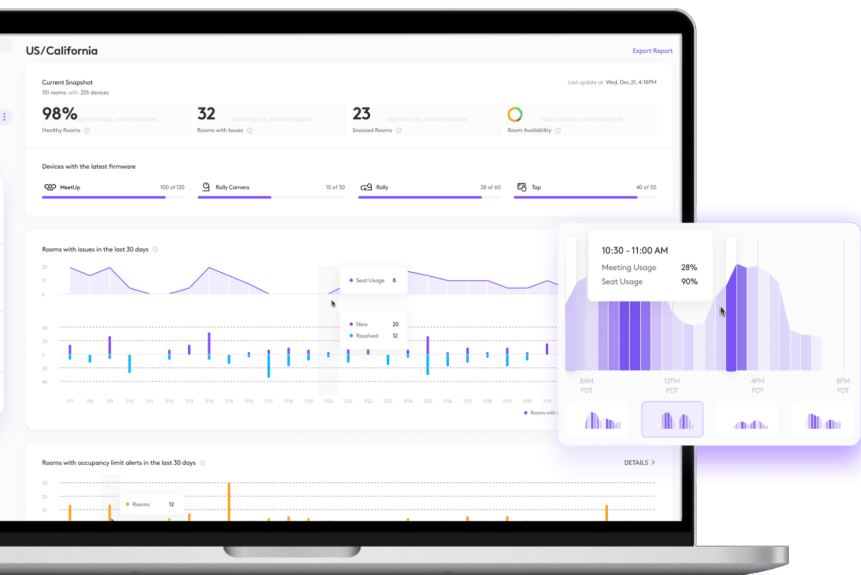
デバイス：[Tap Scheduler](#)、[ロジクール View](#)



ワークスペース のデータを意思 決定に変換

ワークスペースのデータの収集は第一歩に過ぎません。組織には、その情報を分析し、具体的な行動につながるインサイトを得る仕組みも必要です。

ロジカル Sync は、職場チームが会議室の監視、管理、トラブルシューティングを行い、スペースの利用傾向を確認し、複数の拠点にわたる環境データや在室データを追跡できる、一元型管理プラットフォームを提供します。Sync では、複数のデバイスのデータを集約することで、チームがスペースの使用状況を理解し、改善が可能な場所を特定できるように支援します。



使用状況のインサイト

スペースが実際にどのように使われているかを可視化するデータで、予約システムだけでは見えない利用パターンを特定できます。

注目すべき重要な指標

- オフィス全体において、使われ過ぎている部屋と十分に活用されていない部屋
- 部屋のサイズと実際の参加人数とのミスマッチ
- 部屋ごとの会議の頻度と標準的な所要時間

対策

こうしたインサイトは、予約ガイダンスの更新や部屋のレイアウトの調整といった即時の改善に加え、実際の使用状況に合わせた会議スペース構成の長期的な見直しにもつながります。

環境インサイト

職場の状態がスペースの使用状況や従業員の快適さにどのように影響するかを、組織が把握するのに役立つデータ。

注目すべき重要な指標

- 特定のスペースにおける空気の質と微粒子レベルの濃度。
- 時間経過に伴う CO₂レベル、温度、湿度
- 環境条件に関連する部屋の使用状況の変化

対策

施設管理チームは、このデータを活用し、換気や温度管理の改善といった即時対応を行いつつ、より安定した快適な会議環境を実現するための長期的な改善にも取り組みます。

データの活用事例 - 高温セッション

ワークスペースセンサーから、ある会議室が午後で使用されることがほとんどないことが明らかになりました。さらに環境データを分析した結果、正午以降は直射日光によって室温が大きく上昇していることがわかりました。施設管理チームは、このインサイトを利用してブラインドを設置したり、空調運転スケジュールを調整したりして、常に快適な空間を維持できます。

より強力なデータ。 体験を向上。

ワークスペースの使用状況データは、組織がそれを使用してオフィスの機能を改善する際に大きな価値があります。

部屋の在室状況、会議の規模、環境条件に関するインサイトによって、スペースの設計と使用を最適化するための改善機会を見つけることができます：

- 会議室のサイズの構成を、一般的な会議の出席者数に合わせて調整する
- オフィスのピーク日の需要を分散させるためのポリシーを導入する
- スペースの利用状況に合わせて、レイアウトや席配配置を迅速に変更する
- コラボレーションソリューションを備えたスペースを増やして、利用機会を高める
- ロジクール Sync の自動予約や自動解放の機能を有効にして、未使用の部屋を解放する

会議スペースの利用状況を継続的に監視することで、組織は実際の働き方やチームのコラボレーションに合ったオフィス環境へと改善し、既存の部屋や会議室をより有効に活用することができます。

データの活用事例 - ゴースト会議

会議室は定期的に予約されているものの、予約された時間に必ずしも使用されていません。こういった「ゴースト会議」は、生産性の低下により月に最大30時間の無駄を生む場合があります。ロジクール Sync の自動解放機能を活用することで、未使用の予約は設定された時間後に自動的にキャンセルされ、会議室の利用率を上げることができます。

インサイトを 行動に変える

組織が実際のワークスペースのインサイトを行動につなげることで、会議室の空き状況を改善し、従業員の体験を高め、無駄なリソースを削減できます。働き方のパターンが変化しても、データに基づいた意思決定を行うことで、オフィスは効率的かつ快適で、ビジネス目標に沿った環境であり続けられます。

ロジクールワークスペースソリューションは、スマートデバイスと一元的な管理・分析を組み合わせ、組織が実用的なデータを利用してターゲットを絞った改善を行えるようになります。

ワークスペースの実態を把握し、最適化し、価値を最大限に発揮するロジクールのソリューションを活用することでオフィスを活気あふれるコラボレーションの拠点へと変革しましょう。

スペースの複雑な課題に立ち向かう準備はできていますか？

お問い合わせ



logicool for business

右記のリンクからお問い合わせください。

Logitech Europe S.A.

-
-

購入後のお問い合わせ：
株式会社ロジクールカスタマー
リレーションセンター
<https://prosupport.logi.com/>

© 2026 Logitech, Logicool. All rights reserved. 株式会社ロジクールは、Logitech Group の日本地域担当の日本法人です。記載されている会社名・製品名は、各社の商標または登録商標です。その他の商標はすべて、それぞれの所有者の財産です。ロジクールは、この出版物に存在する可能性のある誤記に対して一切責任を負うことはありません。本書に記載されている製品、価格、および機能情報は、予告なく変更される場合があります。

発行：2026年5月